

かわら版

発行 郷土史研究会
吉前町郷土史研究会
吉前町郷土資料館
平成24年6月

さらさら郷土の歴史研鑽を

ライ又の家で総会開催



郷土史研究会の総会が五月二十八日午後四時三十分から「古代の里」のライ又の家で開催され、予算や事業計画などが審議された。事業では、学社融合事業(吉前・古丹別小学校)資料館への協力文化、財等の調査研究、吉前町史編さんへの協力、かわら版の発行など、また、完成した昭和三十年(ころ)の吉前と古丹別の街並地図の活用方法、小樽市内のお寺に吉前町の十二面観音像にまつわる文獻があること伝えられて九月末か十月にかけてそのお寺を訪問し調査すること。

放談会では、ふるさと吉前町の歴史の探究と記録保持に努めていくなど熱心な意見が交わされた。

街並地図の活用方法は

昭和三十年(ころ)の吉前と古丹別の街並地図は、当初両市街を一枚として作製したが、希望者の要求が異なるため、この予想して吉前と古丹別を区分して作製した。写真撮影して原板をつくり、それをコピーするので原寸大より縮小される。有料で配布となりますが、吉前市街図だけとなれば一枚五〇円、両市街は100円となりますが、あくまでも予定です。また配布予定は八月初めのころとなります。受付窓口は吉前町公民館(古丹別)電話055-4076



吉前町の観音像の文獻が小樽に

小樽市のお寺に吉前町の十二面観音像(まじわる)の文獻があるという。この研究会は、秋ごろ訪問し、観音像の由来などを調査することになる。吉前町宇香川にあった

金毘羅(きんぴら)ぼんぼん(病院)が保存し祀っていた吉前町の観音像と小樽市の金堂寺(きんどう)の文獻がどのような関係にあつたのかが興味深い。同寺の住職が来町し説明をつけて分った。

作家、故三浦綾子さんの実家が吉前町の三豊に

旭川出身の作家で、故三浦綾子さんの生誕九十周年を迎え、「三浦綾子記念文学館」では記念事業を企画しており、三浦綾子さんの父母が居住していた吉前町について情報収集したいとのことで記念館のスタッフ三人が五月十七日訪れた。

この日はあいにくの霧雨で肌寒い日であったが、郷土史研究会の浜本哲也さんが対応した。

まず、父親の堀田鉄治さんと母親のキヤさんが居住していた場所を確認するための役場へ向かい調べた結果、三豊の八十と推測、早速居住していた土地に足を運んで確認したあと、堀田家の墓がある大林寺で墓参りして確認調査を終った。

母親の旧姓佐藤キヤさんの出身地は古丹別十二線(現在の共鳴橋附近)であることが分った。

三浦綾子さんは、小説「氷点」や「塩狩峠」「天北集野」など数多くの本を刊行。またギリスタ信者であり、教職に就いた人でもある。――愛はあふぶ

旧樺太知られざる北の国境展

7月17日(火)～8月5日(日)

この特別展は旧樺太(サハリン)の知られざる北の国境展で、共催は北海道大学スラブ研究センター、北海道総合博物館、樺太日露国境標石のレプリカや豊原大泊、真岡、敷香、鬼須取、知取、製紙工場や鉄道、漁業、林業、冬景色など写真やパネルが多数展示されますので是非来館ください。

郷土が街並地図について情報交換

六月二十四日、美深町郷土研究会佐久美研究員(会長)一行二十名が来町した。同会の設立三十周年記念事業の一環としてタイムスリップ、昭和三十五年(街並み再現)地図づくり作製をあげていたところ、二月の北海道新聞に掲載された吉前町の地図づくりの記事を見て参考にしたと訪れた。

午後三時から郷土資料館で地図作製のきりかけ、手順、作製方法、問題点などを説明。また和やかな雰囲気の中で質疑応答や情報交換が行われた。対応者は野澤会長と浜本会員でした。